



# ひであきレポート

## 笠松競馬・津競艇など不振の公営ギャンブル



## 「撤退」を「撤回」から3年 豊橋競輪は今どうなっているの

**笠松競馬は廃止に向かった**  
年明けとともに、岐阜県笠松町の笠松競馬は廃止を視野に入れた取り組みの準備を始めた。

「笠松競馬経営問題検討委員会」は競馬事業に収益確保の見通しがなく、経営改善効果が限界に達していることから、設置目的である地方財政への貢献ができず、今後も自立的経営が困難なことから「速やかに廃止すべきだ」と結論付けた。

笠松競馬の赤字は93年度から続き、ここ4年は毎年5億円前後。過去に積み立てた基金を取り崩して対応してきたが、それも限界。厳しい状態が続いていました。

### 津競艇は正念場

また三重県の津競艇も売り上げ

の低迷により、非常に厳しい経営が続いています。財政調整基金の積み立ても、だんだん底をついてきて正念場を迎えています。

### 豊橋競輪も売上げの減少に歯止めがかかるかどうか

我が豊橋競輪は今年8月27日からの「ふるさとダービー」開催を控えて入場門や売店のリニューアル工事中です。総額7850万円の財源はすべて上部団体からの助成金でまかなわれました。

経営状況は、再建策として、記念競輪の売上げ増や場外車券日数の増加などで収入を確保するとともに、職員、嘱託員および臨時従業員を大幅に削減し、借り上げ駐

車場なども整理して経費削減に努め、昨年度は9000万円余の黒字を出し、4億円余の財政調整基金には3年連続で手をつけていません。

しかし、売上げは厳しく今年も前年比83%で推移しています。

8月の「ふるさとダービー」での売上げに期待が寄せられ、140億円の売上げをめざしていますが、少し利益がでるくらいで「大きな期待ができない」見通し。

市長は「市民の税金は投入しない。そうした事態を招いた時点で豊橋競輪は廃止する」を基本としており、「ふるさとダービー」以降に「下降気味の売上げに歯止めがかかるかどうか」が全てです。

## パンク魔、包囲網、を

豊橋・前畑町 三八朝市通り 周辺住民ら防犯対策協議 (1/29 東日)

豊橋市前畑町の三八朝市通り周辺で、昨年11月下旬ごろから乗用車を狙ったパンク魔が出現。被害に悩む住民約20人が27日、夜間パトロールなどの防犯対策を話し合った。

これまで延べ20台、朝市通り東側道路周辺に被害が集中。中には友人が訪れ、自宅前の路上に夕方の数時間駐車した間に被害に遭うケースもあったという。犯人の口は「いずれも千枚通しのような道具でタイヤの側面を突き刺すもの」。

住民の話し合いでは「個人の車は個人で守る」「住民が警戒している」という態度を示すなどの意見が出され、センサー付き投光器、警戒を呼びかける看板の設置、数人の有志が集まって自主的にパトロールを行うことなどが決まった。

**立ち上がる住民、夜間パトロールなど実施**



# 「夏みかん並木」が教えるもの

詩人サトウハチロー先生から送られた「きいろが黄色が輝きになる」から。

夏みかんの並木道  
思っただけでも

楽しくなる

きいろい

でこぼこ坊主の

夏みかん

……  
……

このくわだては愛から  
出発している

街を愛する心

みどりを愛するきもち

すがすがしさを

愛するものが

一つになっての

並木道づくりに

なれるのだ

## りんごにはみかんだ

日本列島が寒波に包まれた1月31日(月)、青陵街道の「夏みかん並木」で青陵中学生の若い歓声がこだましました。夏みかんの収穫です。

青陵街道の約600mの両側に植えられている夏みかんの木は95本。今年も大きな夏みかんが実り収穫は4000個。これらは福祉施設や小学校、そして長野県飯田東中学に贈られます。

昭和35年5月頃、時の太田生徒会長らは「大火災で沈む飯田市民に元気になってもらおうと飯田東中学生徒会がりんご並木を作った」ニュースに感動し、「りんごにはみかんだ」と「夏みかん並木」を企てた。

それも中学校の校庭でなく、校外に、それも交通量の多い県道に…。市当局、警察署との度々の交渉を経て、ようやく計画の実現の運びとなった。

## 学校と地域と生徒と市民が

昭和36年2月、第一回 資金集め募金で6849円、廃品回収で9900円が集まったのを契機に卒業式前の3月11日各学級ひとつずつ38の穴を掘った。穴だけ掘って卒業した太田生徒会長こそ、現公明党幹事長代行 - 太田昭宏氏である。

昭和36年4月、第一次植樹計画。各学級1本で38本を植えたのがこの青陵街道「夏みかん並木」の始まりである。校区の「夏みかん名人」に指導を仰ぎながら除草、消毒、防霜、施肥と年間作業計画も立て、毎年生徒会が中心となり、生徒と地域とPTAが守り育てた。この間、飯田東中学を訪問しての交歓会も行われた。

昭和41年2月5日、大小併せて60個の夏みかんを初収穫、待ちに待った5年ぶりの感激の夏みかんは廊下に並べられ、全校生徒が喜びあった。

昭和42年11月11日、豊橋文化協会



より文化奨励賞を受け、昭和43年5月29日 NHKテレビ「明日は君たちのもの」で紹介された。これを知った詩人サトウハチローさんから「きいろが黄色が輝きになる」の詩が送られた。

## 市民ソフトパワーこそ

平成4年3月豊橋市議会で「豊かで住みよい緑とひとのまち - 豊橋」を将来都市像とした「豊橋市基本構想」が議決された時の賛成討論で私はこの「夏みかん並木」を紹介した。

「今日まで青陵中学生徒会と地域の人たちが一体となって流した尊い汗にみどりの都 - 豊橋づくりに走った先人の気概を見るのです。

将来都市像を可能たらしめるために市長ならびに行政のリーダーシップは当然のこととして、市民の側の内発的エネルギーと目覚めたる市民のスクラムが不可欠であることを「夏みかん並木」から確認したいのであります」(豊橋市議会議事録より抜粋)

「夏みかん並木」を育ててきた「夏みかんと人」の歴史は45年目を迎えます。

「地域に開いた学校教育」「市民協働のまちづくり」という「教育と地域の再生に何が必要なのか」を「夏みかん並木」は教えています。

青陵街道の夏みかんの収穫が終わり、2月の「鬼祭り」で赤鬼がまちを走り回ると豊橋の春が始まります。



作り続けて18年、配り続けて18年 市議会宅急便